

第30回 ソフトボール競技実施要項

1. 競技種目

男子ソフトボールとする。

2. 競技規定

大会開催年度の(公財)日本ソフトボール協会オフィシャル・ルール及び本大会申合せ事項による。

3. 出場資格

- (1) ブロックごとの出場枠を下記のとおりにする。北海道・東北1、関東3、北信越1、東海2、近畿1、中・四国2、九州3、開催地1、計 14 チーム以内になるものとする。但し、ブロック予選大会参加チーム数により、枠を変更できる。なお、地元開催地チームは予選大会の順位に関係なく本大会への出場権を得ることができる。
- (2) 優勝・準優勝チームが本大会に出場できない場合は、当該ブロックの協議により、代替チームが出場できるが、代替チームに関する責任は代替チームを選出した当該ブロックが全て負う。
- (3) 出場するチームは、当該ブロック内の他のチームから選手を4名以内で補強することができる。当該ブロック内で人数が満たされない場合は、隣接ブロックから加えても良いが、この場合、隣接ブロック体育部長の許可を要する。但し、当該ブロック内で2チーム以上ある場合隣接ブロックから加えることは認めない。
- (4) 最低参加チーム数は12チームとする。但し、12チーム未満の場合は、本年度予選大会で参加チーム数の多いブロック内(1つのみのブロックとは限らない)で、出場枠に外れた上位から順番に足りないチーム数分を推薦する。

4. チームの編成

- (1) 1チームの編成は、監督を含む選手20名以内とする。
- (2) コーチまたはマネージャー、スコアラーが選手として出場することはできるが、選手として出場する場合は、20名の範囲内で登録しなければならない。
- (3) 監督の背番号は30番、主将の背番号は10番とする。

5. 試合球

検定ゴム3号球(ケンコウ)とする。

6. 競技方法

- (1) 対戦方法はトーナメント方式とする。
- (2) 試合(決勝戦を含む)は、7イニング制と時間制を併用し、どちらか先に達した時点で試合終了とする。7回を終了して同点の場合は8回よりタイブレーカーを適用する。
 - ① 90分を越えて新しいイニングに入らないものとする。
 - ② 7イニングまで達した場合は、規定時間に達していても終了とする。
 - ③ 3回15点、4回10点、5回以降7点の差が生じたときは、得点差コールドゲームとする。
 - ④ タイブレーカーは継続打順とし、前回の最終打者を2塁走者とし、無死2塁の状態から1イニングを行う。7回終了または時間が来ても勝敗が決定しない場合、タイブレーカーを行う。

う。なお、タイブレーカーを2回実施しても勝敗がつかない場合、抽選により勝敗を決定する。また、時間切れが生じたとき同点の場合は次回よりタイブレーカーを適用する。

7. 表彰

- (1) 決勝戦終了後、閉会式において行う。
- (2) 個人表彰は、最高殊勲選手・最優秀投手賞・最優秀打者賞・敢闘賞とする。最優秀打者賞は、ベスト3チームの準決勝以降の試合を選考基準対象とし、最高打率によるものとする。

8. 組み合わせ

監督・主将等合同会議において、大会の組合せ抽選を行う。

9. 競技用具

- (1) バット、ヘルメット(JSA)の点検をし、規定以外のもの及び危険と思われる用具は、試合終了まで、競技場本部席で保管する。試合終了後、受け取りにくること。
- (2) 1チームの選手のユニフォームは同色、同衣装で統一された品位あるものであること。また、帽子は同一のものとする。
- (3) アームスリーブ(腕の保護ガード)を着用する場合は、アンダーシャツの着用と同様のルールを適用し、片腕または両腕にアンダーシャツと同色のものを着用しなければならない。
(注)片腕のみ使用は禁止する。
- (4) 背番号は監督 30 番・コーチ 31 番 32 番・主将 10 番・選手は1番から 99 番までとする。胸番号も同一とし胸に付けなければならない。
- (5) 攻撃中の打者、走者はヘルメットを着用しなければならない。
- (6) ①守備中の捕手は、スロートガード付きマスク、ヘルメット、レガースを着用しなければならない。また、ボデイプロテクターを着用しなければならない。
コーチボックスではヘルメットを着用しなければならない。
②捕手用マスクは SG マークが入っているものを着用しなければならない
※SG マークとは、一般財団法人製品安全協会の定める基準に適合したものを指す。
- (7) 準備投球の時、競技場内のいかなる場所で投球練習する時でも、捕球する者は必ずスロートガード付マスク・捕手用ヘルメットを着用しなければならない。
- (8) 金属製スパイク使用は認めない。また、危険行為をした場合は退場とする。

10. 注意事項

(1) 競技開始まで

- ① 試合開始予定時刻の 30 分前、または前の試合の4回終了までに、試合会場に集合すること。遅れた場合は原則として棄権とみなす。
- ② 打順表は、試合開始予定時刻の 30 分前、または前の試合 4 回終了時までに、打順表(5枚1組複写)に必要事項を記入し、必ずふりがなをつけて球場本部に提出すること。相手のチーム打順表は審判・記録員の照合 確認のうえ審判員より受けとる。
- ③ 攻守順の決定は、打順表提出時、審判員立会いのもと「コイン」のトスによって決定する。「コイン」の裏表は先着(打順表持参)チームに優先権を与える。
- ④ 競技者席は組み合わせ番号の若い方を一塁側とする。ベンチに入る人数は要項で定められた者以内とする。
- ⑤ **フイールディング**
競技場に入ることを許されたメンバーで行うこと。
後攻チームより5分間とし、審判員の指示に従うこと。

大会進行上、時間の短縮及び省略することもある。

(2) 競技開始

- ① 「集合準備」の指示で自己のベンチ前に一列横隊に立つ。
- ② 「集合」の号令と同時に駆け足でホームプレートをはさんで整列する。

(3) 攻守交替、選手交替

- ① すべて駆け足で敏速に交替を行うこと。
- ② 選手の交替は、監督が球審にすみやかにその旨、通告すること。

(4) 攻守交替のボール

- ① 特に指示がない場合はピッチャープレートの近くに置く。
- ② 試合終了時は審判員に渡す。

(5) 次打者

次打者は次打者席内で待機しなければならない。なお、安全面を考慮し、打席にいる打者が右打者の場合は三塁側、左打者の場合は一塁側の次打者席で待機しなければならない。

11. 競技場

ダブルベースを使用する。

外野フェンスを設営すること(68,58 以上(225 フィート))

12. その他

- (1) 審判員の判定に基づく判定に対して抗議することは許されない。ルール上の疑義については、監督に限りこれを正すことができる。
- (2) 小雨でも決行するが、万一試合を中止、又は開始時刻を変更する場合は大会本部から各チームに連絡する。また、午前中雨天でも、天候の回復状況により試合を開始することもある。
- (3) 第1試合開始前に始球式を行う。
- (4) 実行委員会は大会参加申込締切後、参加チームが 14 チームに満たない場合、すぐ一般財団法人全日本ろうあ連盟スポーツ委員会事務局にその旨を伝えること。
- (5) 監督・主将会議はユニフォーム着用を義務とする。

13. 本要項の改正

- ・ 一部改正 2004 年2月 22 日 第6回全国委員会
- ・ 一部改正 2005 年2月 19 日 第8回全国委員会
- ・ 一部改正 2008 年2月 3 日 第3回本委員会
- ・ 一部改正 2009 年2月 8 日 第3回本委員会
- ・ 一部改正 2010 年2月 7 日 第3回本委員会
- ・ 一部改正 2011 年2月 6 日 第3回本委員会
- ・ 一部改正 2014 年2月 2 日 第3回本委員会
- ・ 一部改正 2017 年2月 5 日 第3回スポーツ委員会
- ・ 一部改正 2018 年2月 9 日 第3回スポーツ委員会
- ・ 一部改正 2019 年2月 2 日 第3回スポーツ委員会
- ・ 一部改正 2020 年1月 31 日 第3回スポーツ委員会
- ・ 一部改正 2021 年1月 30 日 第2回スポーツ委員会
- ・ 一部改正 2022 年5月 17 日 臨時スポーツ委員会
- ・ 一部改正 2024 年1月 28 日 第3回スポーツ委員会

【申合せ事項】

1. 競技種目

- ・「男子ソフトボールとする。」から「ソフトボールとする。」に変更。
- ・女子が投手を担う場合の投球距離は、男子(14.02m)と同じとする。

6. 競技方法

- (2) ④ タイブレーカーは継続打順とし、前回の最終打者を2塁走者とし、無死2塁の状態から1イニングを行う。7回終了または時間が来ても勝敗が決定しない場合、タイブレーカーを行う。なお、タイブレーカーを1回実施しても勝敗がつかない場合、抽選により勝敗を決定する。また、時間切れが生じたとき同点の場合は次回よりタイブレーカーを適用する。

7. 表彰

- ・個人表彰はベスト3チームの準決勝以降の試合を選考基準対象とする。